

琉球大学学術リポジトリ

はじめに：本学における高大連携事業について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 裕輝, Nishimoto, Hiroki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41709

はじめに～本学における高大連携事業について

西本裕輝（大学教育センター）

これまで本学では、大学教育センターと生涯学習教育研究センターが連携して、高大連携を推進し、一定の成果をあげてきた。特に平成17年度からは、中期計画達成プロジェクト経費の助成を受けており、一層の充実が見られた。

本学における高大連携とは、主に三つの取組からなっている。

第一に、「出前講義」である。これは本学の教員が高校（離島も含む）へ出向いて授業を行う取組である。したがって、高校生用に1時間程度、専門分野について講義を行う形式となる。1回限りで終了するタイプが多い。特に、普段大学教員と触れ合う機会の少ない、離島の高校生を対象とした講座に力を入れてきた。

第二に、「琉大訪問」である。これは高校生（離島も含む）が本学に来学して模擬授業を受ける取組である。これも出前講座と同様の形式で行われるが、実際に本学のキャンパスも見てもらえるので、講義終了後、図書館の見学をしたり、生協で食事をしたり、実際にキャンパスライフを体験できるメリットがある。また、本学に訪問高校の卒業生が在学している場合には、アルバイトとして参加してもらい、一緒に図書館を見学したり質問に答えたりしている。

第三のタイプが「公開授業」である。これは正規の授業を高校生にも公開する取組である。上記二つが、高校生用に特別に用意された一回限りの講義であるのに対し、これはもともとある大学生向けの授業であ

るので、高校生向けに特別な準備を行うことは基本的にはない。ただし、教員によっては教育の相乗効果をねらって、大学生と高校生が交流しながら行う講義スタイル（例えば、ディベート）を取り、共に刺激し合う環境を整えることもあるだろう。

以上の取組を通して、大学側としては、①地域貢献、②将来の顧客の獲得、③入学生のミスマッチの解消等が期待できるであろうし、高校・高校生にとっても、①高校生の将来目標の設定に役立つ、②学習意欲の向上、③ミスマッチの解消等のメリットがあるだろう。

この他にも本学では、ネットを利用した遠隔授業等も行っているが、ここでは特に「出前講義」と「琉大訪問」についてこれまでの成果を中心に報告を行いたい。

まずは生涯学習教育研究センターの背戸教授より、高大連携の意義についてふれてもらう。そもそもどのような文脈で推進されているのか、歴史的、行政的視点から論じる。

次に西本より、プロジェクト経費の助成を受けて行われている本取組についての具体的実践例について報告を行う。これまでどのような取組が行われ、それは参加した高校生からどう評価されているのかについて中心的にふれる。

最後に、大学教育センターの天野准教授より、他大学の高大連携の事例報告として、広島大学を取り上げて論じてもらう。